

第6回キャリア支援研究会

学生同士のピアサポートと支援者のサポート
～先輩から後輩へのピアサポートを例に～

2011年12月1日 (木)

聖学院大学 広報企画部 キャリアサポート課
磯田 和久

k_isoda@seigakuin-univ.ac.jp

自己紹介

- 1997年4月 聖学院大学入学 4年次絶就研チューター
2001年3月 聖学院大学卒業後 某メーカー系商社に入社
2004年11月 聖学院大学キャリアサポート課に入職

聖学院大学の紹介

【創立】：1988年4月

【所在地】：埼玉県上尾市

【定員】：各学科1学年定員100名

- 政治経済学部（政治経済学科・コミュニティ政策学科）
- 人文学部（欧米文化学科・日本文化学科）
- 人間福祉学部（児童学科・人間福祉学科）

★詳細情報は聖学院情報発信システム「SERVE」をご覧ください。

SERVE URL: <http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/>

絶対就職するための研究会（絶就研）について



★よい結果を持って就職活動を終了した4年生を選抜しチューターを選出。人数は例年10名前後で構成(苦勞して内定を獲得した経験を重視)

★基本的にはチューターが自ら企画や運営を行い職員はサポート役である。

★1999年に結成され、今年度13年目をむかえる。

★卒業式では毎年功績を讃えられ、学長表彰が授与されている。

★今までに絶就研チューターとして活躍した先輩は100名以上。

概念図

先輩＝ロールモデル

希望を持って活動

人間的成長

在学生

絶就研

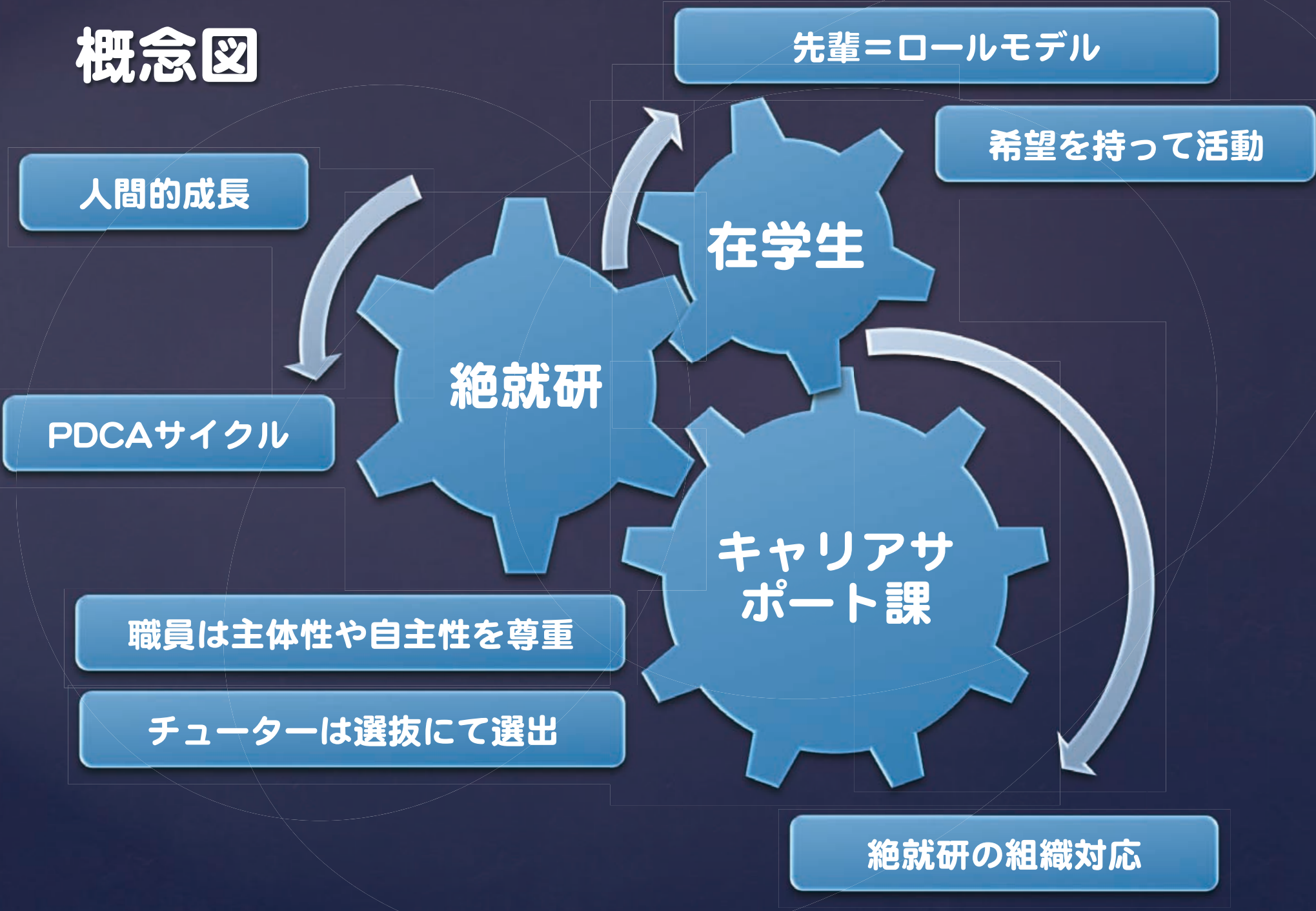
PDCAサイクル

キャリアサ
ポート課

職員は主体性や自主性を尊重

チューターは選抜にて選出

絶就研の組織対応

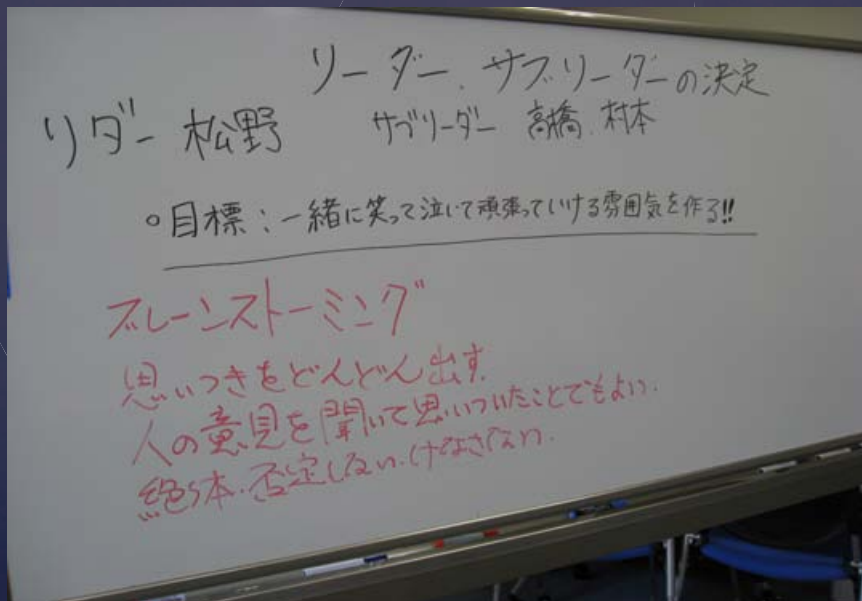


【絶対就職するための研究会発足の目的】

- 就職活動における相談者が少ない（OB・OG等）ことから自信を持って就職活動が行えない学生がいる状況を改善するために身近な4年生による相談対応できる仕組みの必要性を求められた。
- 大学が持つ成功事例を活用することが、効果の高い学習に繋がることを考えた。
- 就職活動で「生の声」を伝えられるのは経験した人だけという観点から、就職活動を終えた4年生の経験は何よりも説得力があるため。（職員よりも学生視点でのアドバイスができる。）

絶就研チューター研修会

●チューター結成後に指導効果を上げるために、専門家を招きコーチングとティーチングを学ぶ研修を実施している。また、チューターメンバーだけで、運営方針や目標を決め、自分たちで運営するという意識を研修会を通し持たせる機会となっている。



絶就研の主な活動内容

3年生支援

- ・ピアサポート（専用ブースを設置）
- ・企画イベント（GD対策等）

1・2年生支援

- ・キャリアガイダンス出演
- ・就職活動への相談対応

その他

- ・就職ガイダンスサポート（受付、資料配付、学生誘導）
- ・学内外イベント対応

【ピアサポート】

- 4年生チューターが自ら体験した就活を3年生に伝えながら、アドバイスを行う。（履歴は共有）
（対応できる範囲で、それ以外は職員が対応する）
- キャリアサポート課に専用ブースを設け常駐して学生の個別対応（一般的相談、履歴書添削等）



【企画・イベント】

- チューター研修会で、その年のチューター活動方針・計画を決め、それに沿って活動する。
- 企画イベントはグループディスカッションやランチトーク等運営をする。



【キャリアガイダンス出演】

- 1年生・2年生には就職活動よりも大学生活（授業や課外活動）をどう過ごしたかに重点を置いた話をしている。学生からはロールモデルとして見る絶好の機会となっている。（身近な存在）
- 就職活動の成功と挫折（特に失敗談を中心に）



【後輩から先輩への感謝の会】

- 卒業前に「絶就研感謝の会」を開催し、後輩からお世話になった先輩へ感謝する会を開催している。
- ピアサポート等を通して、4年生チューターと3年生の間に信頼関係が生まれ、卒業後も連絡を取り合ったり、チューターに憧れて、翌年度実際にチューターに選抜されたりするケースもある。



【学生同士のキャリア支援活動の効果】

- 1年生～3年生にとっては、やればできるという確実性を持っている身近な先輩のアドバイスを受け入れることでロールモデルとなる。そして学生生活及び就職活動に対し希望を持つことができる。
- チューターの4年生にとっては、PDCAサイクルで行動する習慣を学んでいる。
(企画を計画→実行→反省会→反省を踏まえ再チャレンジ)
- 様々なタイプの学生と接することで、人を指導する難しさ、効果的な話し方、熱意を持って接すれば相手も答えてくれる等を学んだという意見が多い。
- 内定実績への効果（早期内定につながっている）

【今後の課題・対策】

1. 企画プログラムへの参加者の減少

現状・背景

参加学生が年々減少している。
(2000年度30%→2011年度10%未満)

対応・対策

→アンケート等の実施でデータ収集を行う。
→リピーターでの参加学生を増やしていくための
取り組み。

2. 卒業生ネットワークの活用

現状・背景

卒業生ネットワークが構築されていない。

対応・対策

→Facebookの活用を通じコミュニティを形成
→在学生に対してガイダンス
→キャリアサポーター制度の創設

【今後の課題・対策】

3. チューター候補の選抜について

現状・背景

年々チューター候補者20名弱の確保が困難に

対応・対策

→選抜基準は変えない（苦勞し内定を獲得した学生）
→卒業生組織を見据え、多様な学生にアプローチ

4. キャリアサポート課職員としての関わり方

現状・背景

以前に比べチューターの主体性が低くなっている。
職員としてはサポートする立場だが、ここ数年は
先頭になって旗振り役をすることも。

対応・対策

→学生に主体性を求めること＝サポート？
→チューターのモチベーションは何か？